

はじめての
現場の仕事の基本

ものづくりの仕事の重要性を理解し 元気に、明るく取り組もう

ものづくりの仕事は、きわめて重要です。大きくとらえると日本経済はものづくりによって成り立っていると言えます。このものづくりを支えているのが現場です。現場の力を強くすることは、産業全体を強くすることにつながります。

ものづくりの仕事をするには、何よりも現場をよく知る必要があります。はじめて現場の仕事に取り組もうとすると、いろいろな原材料や部品があり、たくさんの機械設備があって、どうしたらいいかとまどってしまうことがあります。多くの要素が複雑にからみあって、なかなか自分のやっている仕事の本当の姿が見えてきません。

このテキストは、はじめて現場の仕事をしようとする皆さんのために、現場の仕事の基本を紹介しています。第1章は、ものづくりの仕事に取り組む心がまえが述べられています。安全第一の考え方、挨拶などの基本行動、そして「5 S」の重要性を理解していくことが大切です。第2章は、ものづくりの仕事の原則です。仕事の流れを理解し、チームワークのとれた仕事のすすめ方を学習してください。

第3章は、ものづくりの仕事のポイントです。毎日の仕事がきちんと行われるために何をすることが必要があるか、簡潔にまとめられています。第4章はステップアップのための行動の仕方です。決められたことを決められたとおりに実行するということは、言われたことさえやっていればいいということではありません。

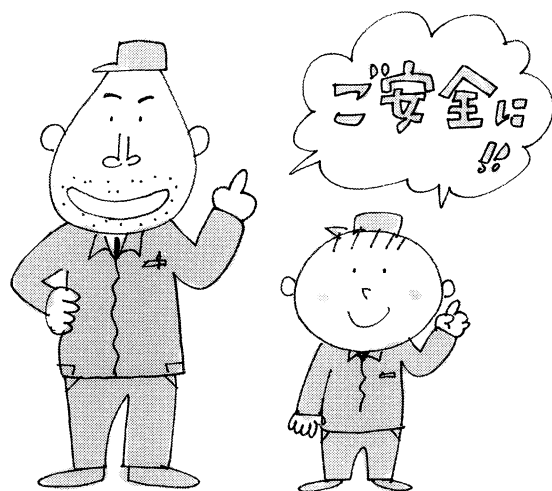
このテキストをていねいに読んでいただければ、ものづくりのプロへの第一歩を確実に踏み出すことができます。

目 次

はじめに	3
第Ⅰ部 仕事に取り組む基本の姿勢を身につけよう	5
第1章 ものづくりの仕事に取り組む心がまえ	7
1. 何よりもまず「ご安全に！」(安全第一)	8
2. 自分から「挨拶」をする習慣をつけよう	10
3. 「身だしなみ」を整えよう(服装、保護具の着用)	12
4. 「動作」は機敏に、はつらつと	14
5. 決められたことを決められたとおりに実行しよう	16
6. 「5S」って何をするの?!	18
7. 身のまわりの「整理・整頓」を徹底しよう	20
8. 「清掃」活動は仕事そのものだ	22
9. 「時間」に対するけじめをつける	24
10. 「体調」管理に万全の注意を払う	26
第2章 ものづくりの仕事の原則を身につける	29
1. 工場の仕事の流れを頭に入れよう	30
2. 自分の職場(工程)の役割を知ろう	32
3. 「正しい」作業(標準作業)ができるようにする	34
4. 「速く」作業ができるようにしよう	36
5. 「チームワーク」——協調と協力は仕事の基本	38
6. 「ミーティング」や「会合」には必ず参加する	40
7. まわりに迷惑をかけないように行動する	42
8. 「報告・連絡・相談」を確実に行う	44
9. 「失敗(ミス)」は隠さず二度と繰り返さない	46
10. 「動く」と「働く」の違いを理解しよう	48
第Ⅱ部 “ものづくり”の仕事の急所を理解しよう	51
第3章 ものづくりの仕事のポイントをつかもう	53
1. 仕事のPDCAをきちんと回そう	54
2. 仕事は「段取り八分」で決まる——段取りができれば一人前	56
3. 集中力を高め確実に「実行」する	58
4. 今日一日の仕事を「反省」し、明日につなげる	60
5. 「始業時点検」と「引き継ぎ」を確実に行う	62
6. 「異常時」の対応のルールを知ろう	64
7. 「後工程はお客様」の考えで行動しよう	66
8. 「品質」に責任を持つ——不良は絶対に出さない	68
9. 「コスト」意識を持つ——コストダウンはなぜ必要か	70
10. 「納期」を厳守する——期限のない仕事はない	72
第4章 仕事を工夫・改善しステップアップしよう	75
1. 「ムダ・ムリ・ムラ」(3ム)をなくそう	76
2. 「ムダ・ムリ・ムラ」(3ム)を見つけよう	78
3. 「7つのムダ」って何だ?!	80
4. 「改善の原則」を理解しよう	82
5. 「改善提案」に積極的に取り組もう	84
6. 「技術・技能」を磨こう	86
7. 「多能工」に挑戦——自分の仕事をもっと広げよう	88
8. 「QCサークル」(小集団活動)に参加しよう	90
9. 「QC手法」や「改善手法」を勉強しよう	92
10. 「自己啓発」をすすめよう——3年後の目標を持とう	94

第Ⅰ部

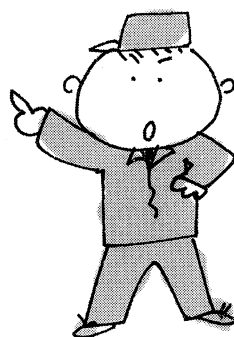
仕事に取り組む 基本の姿勢を身につけよう



第Ⅰ部学習のポイント

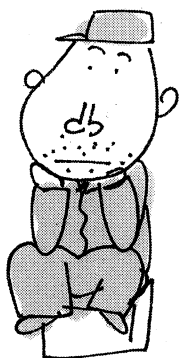
● 第1章 ものづくりの仕事に取り組む心がまえ

- ① ものづくりの基本は「安全第一」である
- ② 気持ちよく仕事をするために「挨拶」をしよう
- ③ 「身だしなみ」はマナーだけでなく安全上も大切だ
- ④ だらだら仕事をしてはいけない。機敏に行動する
- ⑤ 第一歩は「ルール」を守ること
- ⑥ 「5S」（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）とは
- ⑦ 「整理・整頓」のすすめ方を学ぼう
- ⑧ 「清掃」は仕事そのものである
- ⑨ ものづくりは「時間」が大切。ケジメをつける
- ⑩ 健康は仕事の基本——体調管理を万全に



● 第2章 ものづくりの仕事の原則を身につける

- ① 仕事の全体の流れを頭に入れよう
- ② 自分の職場（工程）の役割を自覚する
- ③ 正しい作業を行うために「標準作業」を身につけよう
- ④ 速く作業ができるように努力しよう
- ⑤ 仕事はチームワークよく行うことが大切である
- ⑥ ミーティングや会合に参加するときの心得を理解する
- ⑦ まわりの人たちに迷惑をかけない行動の仕方
- ⑧ 「報告・連絡・相談」（ホウレンソウ）の仕方
- ⑨ ミスやトラブルが発生したときの対処の仕方
- ⑩ 成果のあがる仕事のすすめ方、働き方をしよう



第1章

ものづくりの仕事に 取り組む心がまえ

1

何よりもまず「ご安全に！」（安全第一）

経営資源として、人・物（建屋、機械、製品、材料など）・金・情報があげられます。この中で最も大切なものは会社の業務を遂行する「人」です。人があって、物・金・情報が生きるのです。したがって、ものづくりにとって最も重要なものは、品質でも、生産性向上でも、新製品開発でもありません。それは安全です。人命にかかわることであり、何よりも**安全第一**と言われるゆえんはここにあるのです。

（1）労働災害の実態

安全第一と言われていますが、平成18年度の全産業における死傷者数は12万余人（死亡者数1,472人）と、多くの人が労働災害を被っているのが現状です。全企業、全従業員あげて労働災害の撲滅に向けた活動を継続していくことが望まれています。

平成18年労働災害死傷者数（死亡災害および休業4日以上死傷災害）

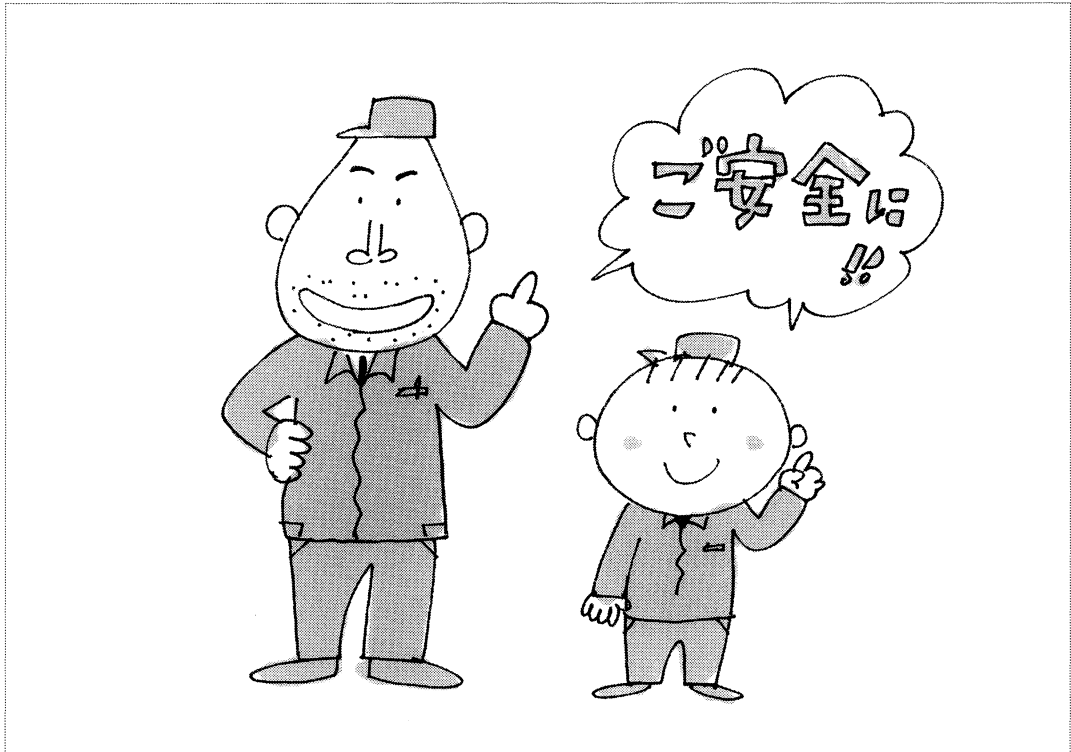
	全産業	製造業	鉱業	建設業	交通 運輸業	陸上貨 物運送 事業	港湾 荷役業	林業	その他
死傷者数	121,378	29,732	476	26,872	2,012	13,402	298	1,972	46,614
構成比率（%）	100.0	24.5	0.4	22.1	1.7	11.0	0.2	1.6	38.4

出所：厚生労働省「平成18年における労働災害発生状況（確定）」
（労災保険給付データ及び労働者死傷病報告（労災非適）より作成。暦年）

（2）労働災害対策はヒヤリ・ハットの撲滅から

アメリカのハーバート・ウィリアム・ハインリッヒは、労働災害 5,000 件余を調査した結果、重傷以上の災害が1件発生する背後には、29件の軽傷を伴う災害が起こり、さらにその背後には300件もの**ヒヤリ・ハット**（災害が起こりそうになったり、ヒヤリとしたこと）があるという法則を導き出しています。この法則は「ハインリッヒの法則」と言われており、ヒヤリ・ハットの撲滅が労働災害撲滅への基本であることが示されています。

ヒヤリ・ハットの撲滅には、**KYK（危険予知活動）**や**KYT（危険予知訓練）**などを通じて職場の整理・整頓および点検整備を徹底し、職場の不安全状態を排除するとともに、安全な作業を行うための標準作業書の作成とその励行によって、不安全行為を撲滅していくことが大切です。なお、「整理・整頓」、「点検整備」、「標準作業」を



安全の3原則と言います。

(3) KYK（危険予知活動）

KYKとは、始業時など作業を行う前に、自分たちが行っている作業に潜んでいる危険について話し合い、潜んでいる危険を見つけたら、それに対する対策を立案し、対策を行っていく活動です。毎日短時間のKYKを行って、危険に対する意識の向上を図るとともに、KYKのレベルアップを図っていくことが重要です。

なお、KYKの3つの効用として、①危険に対する「感受性」を鋭くする、②行動の要所要所で「集中力」を高める、③安全衛生推進へのやる気を高める——があげられています。

(4) KYT（危険予知訓練）

KYTとは、職場内の数名のグループで、災害が発生すると思われる現象（作業状態や作業環境）を描いたイラストを使って潜んでいる危険を話し合い、摘出し、その対策案をまとめることによって災害に対する意識の向上を図り、災害を未然に防ぐことを目的とした訓練方法です。